

第4回鎌ヶ谷市地域福祉計画策定委員会 会議録

日時：平成28年2月24日（水）13時30分～16時

場所：鎌ヶ谷市総合福祉保健センター4階会議室

<策定委員>

出席者：徳田訓康委員長、九谷林太郎副委員長、石川宏貴委員、三好志都美委員、川村浩幸委員、馬場一郎委員、三浦弘委員、山本幸子委員、福澤明二委員、近松光夫委員、田邊光子委員、中野洪委員、山根亜紀委員
以上13名

欠席者：なし

事務局：斉藤健康福祉部次長、高橋社会福祉課長、白藤課長補佐、會澤主査、岩下主事、大関高齢者支援課主幹介護支援係長、高橋社会福祉協議会事務局次長、株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 中島主任研究員、山下トータルアドバイザー
以上9名

公開・非公開の区分：公開

傍聴者：なし

<次第>

- 1 開会
 - 2 第4回会議
- 議題

- (1) 会議録署名人の選出
- (2) 計画素案の修正箇所の説明
- (3) その他

- 3 閉会

<会議録>

- 1 開会
- 2 第4回会議

議題（1）会議録署名人の選出

第1回会議において名簿順での選出と決定しているため、本日の会議録署名人は三浦委員、福澤委員とする。

議題（2）計画素案の修正箇所の説明

事務局

資料2「鎌ヶ谷市地域福祉計画 第3回策定委員会（H28年2月8日）における委員意見に対する修正案」により説明を行う。

<質疑応答>

徳田委員長

事務局より説明があったが、何か質問はあるか。

中野委員から話があったが、計画書42ページの次にコラムが1枚追加となりページが43ページになるため、1つずつページ数がずれていくことになる。

九谷副委員長

計画書73ページの下の方、「特に現在最も人数の多い団塊の世代・・・」で※印がついているが、その※印の意味は15ページの①市民の役割（個人、家族）の部分で意味合いが書いてあるが、※印の意味がわかりやすいように下などに何か表記をしておかなくて良いのか。

事務局

まだ全てが整っていない。※印は用語説明の部分であり、下の空白に※印の用語説明を入れる。今日の段階では間に合わなかった。

徳田委員長

その他に何か質問はあるか。

馬場委員

計画書43ページの主な困ったときの相談窓口に中核地域生活支援センターを加えるということは、まだ表には入っていないのか。

事務局

資料2 素案の差替えの部分に入っている。

馬場委員

了承した。

田邊委員

計画書の34ページと35ページで、ボランティアの若い担い手として小学生や中学生・高校生がやりやすい環境を整えることは、とても大事なことである。イベント的でなく日常的に目を向けさせることが大事である。その参考事業が126ページにあるが、取り組み07) No.19に学校教育課が入っていないかとも感じた。できれば入れてもらい、より具体的に学校で何ができるのか進めていってほしい。

事務局

各課ヒアリング・庁内ヒアリングを行ったが、なかなか踏み込んだ教育委員会の範疇の

捉え方が足りなかった。再度、教育委員会と協議をして表記・付け加える等があれば、担当課の意見を聞いて担当として入れたいと思う。具体的にいうとNo.19 以外にはないか。

田邊委員

No.20 に職場や学校という言葉があり、気になった。具体的な取り組みを考えるのであれば、学校教育課が入るのでは。

事務局

教育委員会とデータのやり取りをしているので、単に担当課が洩れてしまったかもしれないので確認をする。

徳田委員長

その他に質問はあるか。

事務局

スケジュール関係の説明をしたい。本日が第4回目の策定委員会となり、これを受けて承認をいただければ、修正案を素案の中に入れてパブリックコメントができる計画を作っていく。内部的な政策調整会議や市長決裁等があり、それを経た後に4月8日から5月7日までの間に、前回第3回策定委員会で渡したスケジュール表に沿ってパブリックコメントを実施していきたいと思っている。

その後、内部調整等を経て第5回策定委員会を6月15日水曜日を実施し、これが最後の会議となる。その中でパブリックコメントの意見を反映させて修正箇所を示すことになる。第5回策定委員会後に概要版を作成し製本する。議会報告も行い、自治会や公共施設に広く配布していく予定である。計画書が完成した段階で委員の皆さまにお渡ししたい。

徳田委員長

何か質問はあるか。質問がなければ、議題の「その他」はこれで良いか。

事務局

事務局からは以上である。委員長に読んでいただいた字句の訂正、誤字脱字については委員長に一任いただくこととなる。

福澤委員

計画を実施するにあたり伺いたいが、インターネットやホームページを見るといった文章が多く出てきている。現実問題として、今の高齢者の方はインターネットを使ってホームページを見るのは難しい。また見る方は非常に少ないのではないか。もし分かるのであれば年齢別にどのくらいの使用率なのか認識できているのか。インターネットを使用していない方には、どのように計画の周知を徹底できるのか難しい問題である。

事務局

周知は難しい。ひとつは自治会の回覧板である。少なくとも概要版は自治会の回覧板で回してもらい、近くの公共施設には冊子が置かれる予定である。詳しいことは市役所や最寄りの公共施設に行ってください、見てもらうことになる。しかし自治会に加入していない方はなかなか見る機会がない。

福澤委員

年齢別の資料等はあるのか。例えばインターネットやホームページの使用率が分かるデータがあればわかりやすい。高齢者でもインターネットやホームページを使っている方もいるが使っていない方が多い。そのあたりの対応をどのようにするのか気になる。

徳田委員長

前回の会議の際に、近松委員からご指摘があったように、年齢別の概要を作るという話がでていなかったか。

事務局

今はまだ概要版の仕様が決まっていない。

徳田委員長

概要版を各団体、老人クラブ等にも配布をするのはどうか。

三浦委員

自治会連合協議会は45,000世帯のうち28,000世帯しか加入していません、61パーセント程度です。自連協に加入していない世帯が40パーセントになります。冊子を公共施設などに置き、興味を持って見てくれる方もいると思うが、自治会連合協議会に加入しておらずインターネット等も見ない方にはどのように徹底すれば良いのか、良い意見があればお聞かせ願いたい。

馬場委員

自治会連合協議会に加入していない方の年齢層のデータはあるのか。

三浦委員

年齢ではなく鎌ヶ谷市の人口は109,000人いるが、だんだん人口が増えていくに従って加入が少なくなっている。

九谷副委員長

一軒家やマンション等の持ち家の方は加入しているところが多い。私どもの自治会では8割に近い方が加入している。しかし最近では退会が多く、その理由としては高齢化が進ん

でおり役員が回ってきても迷惑になるから辞めたいという方が増えている。またアパート等は400世帯あり、殆どの方が加入していない。アパート等に住んでいる方が若い方だけとは限らないが、統計が取れていない。

馬場委員

例えば大きなマンションができて入居しても加入していない方が多いということなのか。

九谷副委員長

分譲マンションの場合は、加入してほしいとアピールしているので加入してくれる方が多い。賃貸マンションに関してはマンションを建設する前に管理会社から連絡がある。加入については管理会社と交渉をするしかない。直接、自治会費をもらえないので管理費の中に含めて頑張るというところも現実にはある。年齢層がどうかと言われてしまうとわからない。

馬場委員

年齢に限らず大きなグループがあり、上の方とのつながりがあれば情報を辿るものがあるれば良いと思う。

九谷副委員長

そういう意味では加入しない方については情報が伝わらない。仮に加入していても回覧板を回しても皆さんは見ない。立派なものを作っても伝わらないので、どのようにして告知していくべきか皆さんで考えていかないといけない。

山本委員

素案に関しては、これがないと鎌ヶ谷市地域福祉計画を実施していくことはできない。計画の概要版があり、中身をかみ砕いて分かりやすく作られると思うが、概要版はどのくらい発行する予定か。

事務局

計画書29ページを見ていただくと、地域での支えあい拠点を図に示してある。高齢者の方から保育園、児童センターまであり、若い方まで施設的に網羅している。このあたりの需要がどのくらいあるか検討していく。今の段階ではわからないので、概要版は多く余っても良いくらい作りたいたいと思っている。

中野委員

例えば、介護保険がスタートする等や大きなイベントがある時は、いろいろな会合があり民生委員児童委員や自治会・ボランティアグループ等の会合がある。会合の時に市の職員が説明に行って周知を図っている。どのように周知をしていくのか考えていかななくては

いけないが、そういった説明会を設けてもいいのではないのかと思う。冊子を作っただけでは猫に小判のようなことになってしまう。積極的に説明に出向くといったことができれば良いと思う。

事務局

以前に行った6地区社会福祉協議会の地区懇談会の単位では大きすぎるか。

中野委員

そうである。1時間かけて説明してもいいと思う。以前、地区社会福祉協議会が招集した80名程に対して介護保険改正の説明をしてもらったのでよく理解できた。いろいろな会合が市の中にはたくさんあるので、積極的に説明をして理解していただくことしか、今のところはないのではないか。

事務局

計画書97ページに統計資料があるが、情報の収集の方法として一番多いのが新聞・テレビ・ラジオであるが、今回に関しては新聞・テレビ・ラジオは難しい。二番目は市の広報やホームページ・自治会回覧である。あとは家族・知人・友人からである。これらを合わせると半数になるが、3割4割の方には届いていないということである。その方たちが会合に出てきているのかにもよって違ってくるのではないか。仮に会合に出ていなくても、会合に出てきた方から伝えてもらえるのは、ある程度地域の力にもよる。

中野委員

介護保険改正の説明会でも、福祉活動をメインとして活動している方たちを80人程集めた。その方たちが周りに広めていくということを行なっても良いと思う。

馬場委員

地域包括支援センターの普段の活動の中で、周りの方が気にかけても地域の方との交流を拒んでいる家庭が時々ある。そこには高齢者の方や小さい子どもがいたり、中年で引きこもっていたり、障害のある方を抱えている等、困っている家庭もある。我々の訪問も、行くきっかけ・理由があった方が訪問しやすい。例えば概要版ができて、全体に知らせるということではなく、民生委員から心配な家庭があるので様子を見てほしいと連絡をもらうが、概要版をきっかけに訪問をして家庭・家族の様子等を把握できる良いツールになると思う。

山本委員

是非お願いしたい。

馬場委員

民生委員児童委員から連絡をもらい、助かっている。結構関わりを拒んでいる家庭が多い。目には見えない潜在化している部分もあり、高齢者だけでなく子どもであったり孫であったり困っている家庭がある。活用してもらえればと思う。

徳田委員長

平成28年2月24日の新聞に民生委員児童委員の見守り活動の重要性の記事が掲載され、それについての投書があった。若い方が民生委員児童委員やボランティアをやってくれることを望んでいるといった内容であった。いろいろな機会を通して中野委員が言っていたように団体の説明会等を通して周知することは大事なことである。市はホームページや広報しかないが、特集を組んでもらいその内容だけが記された広報を作るなども良いのではないかと思う。鎌ヶ谷市の予算が300億円程度あると聞いている。

山本委員

活用しやすいのは分厚くない概要版の方で、読むことでいろいろなことがわかれば良いと思う。私は民生委員児童委員だが、民生委員児童委員のことが書いてあると非常に参考になり持ち歩くこともできるので、あまり分厚くない概要版を作ってもらえるとありがたい。

三好委員

それについては賛成である。私どもの施設でも親御さんに手紙を出してもなかなか読んでもらえず困っている。何かあるとその都度手紙を出しているが、読んでもらえていないので後から困った質問をしてくるが、すでに手紙で知らせていると伝えることが多い。子どもが持っているような連絡帳のA4判のファイルがあるが、それは施設と家庭の連絡の行き来に利用している。分からないことや質問等はその連絡帳にメモを挟んでもらうようにしている。一目でわかるような概要版は良いと思う。概要版を渡してから、親御さんは緊急のことなどで困って電話をしてくるのが少なくなった。

川村委員

説明する側も専門職だからといって熟知して理解していないと、違った方向に伝わっていく可能性があるのでは気をつけないといけない。それを考えると先ほど中野委員が言ったように市の方が少なからず鎌ヶ谷市内の事業所の方たちを集めて概要版を説明してもらいたい。市の方は大変かと思うが、是非勉強会の場を作ってもらえると良いと思う。

事務局

ありがとうございます。平成28年6月15日に第5回目の策定委員会があるので、その時までには方向性を示すことができるように検討していきたい。少しヒントをもらいたいが概要版は本当にページ数がないが、全部を入れてしまっても概要版にならないので、

これは絶対に入れないといけないという内容はあるか。

三浦委員

難しい。興味のないところは見なくて良いということではいけないので関心を持ってもらうには10パーセント程度にまとめると良いと思う。事務局がまとめる作業が大変かもしれない。

福澤委員

概要版では、お子さんがいる家庭、高齢者がいる家庭と、一目で見ると見たい内容がわかりやすいようにして読んでもらうためのきっかけになる。もっと詳しく知りたい方は詳しく書かれている冊子を求める。自分が読みたい項目が一目でわかるようにまとめてもらえると非常に助かる。

山根委員

簡単にYES・NOで進んでいけるチャートがあると思うが、そういったものがとてもわかりやすく、さらに詳しく調べたい時でも次に進んでいくところがわかれば市民の方も読みやすいと思う。

九谷副委員長

差替えの43ページの部分の「主な困ったときの相談窓口」では堅すぎる。子どもや高齢者といったいろいろな項目ができていて、「ここにご相談ください。詳細については・・・」などもっと柔らかい表現で明記してはどうか。困っている内容により高齢者であれば①～⑩といった項目別に小さいことまで分けていく。困った時にすぐに相談ができるように明記させていることができると、皆さん活用するのではないかと思います。

福澤委員

例えば、お金に困っていても相談するところがわからない時に、九谷副委員長が言ったように細かく明記されていると、どこに相談すれば良いか一目で分かるようなきっかけを作っていく。市はこのような対策を行なっていることがわかれば良いと思う。更に細かく言うと最初のページに活字の大きさを明記するとより分かりやすい。細かく書かれていても自分が困っている内容しか見えてくれない。子ども教育等、中身が簡単に明解であればそれに向かって進んでいける。そうなればページ数も増えないと思う。市民がわかりやすく使いやすいように作っていただきたい。

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 中島主任研究員

地域福祉計画とは、サービスを受ける側だけの計画ではない。自分たちが地域福祉の担い手である意味合いを持っている計画である。サービス窓口案内は、個別計画である子ども子育て支援事業計画、高齢者の福祉計画、障害者の福祉計画で作られていると思う。地

域福祉計画の難しいところは、そういった観点もあるということで概要版を作るとなるとパッと見て分かるかということ、なかなか難しい。もちろん一目でどういったサービスがあるか分かるようにするのも重要だが、それだけでは地域福祉計画としては片手落ちな概要版になってしまうということをご了解いただきたい。

福澤委員

その通りであると思う。逆に言うと、私も協力できるのではという気持ちになるかもしれない。そういったことにも繋がることもあるので、もしそういうことであれば今の中身で表示して裏返した話を、それについて協力してくださる方がいれば是非参加していただきたいといった文章を入れていくことによって生きてくるのではないかな。

三浦委員

確かに、計画書を読むのは各委員であるから見ているが市民が読破することは大変なことである。興味のあるところは見ると思うが、全般的には概要版が必要である。概要版を作るには努力が必要になるが、努力をしていただき、普及しないことには立派な130ページ以上の計画書を作っても見てもらえないのでは意味がない。

福澤委員

内容的に実現されれば素晴らしい鎌ヶ谷市になり、できることをやっていくことが大事である。一年ごとにチェックを入れるのか、そういったことも併せて考えていく。分かってもらう、分かってほしいので見て分かるものを作ってほしい。

事務局

次の会議より前に、個別に電話で案を伺うことがあるかもしれないが、次の会議には今のいくつか難しいハードルがあった中で、なるべく簡潔なたたき台を用意したいと思っている。先ほどの提案の通り、困っている方がどこに相談すれば良いのか分かるようなことをある程度入れていきたいと思っている。行政サービスで、たくさん出てきている自立支援の新しいメニューやいろいろな国の施策が下りてきているので、それはなかなか行政だけでは埋まらないところがある。そのあたりを地域のボランティアの方や地域で埋めていくところも書いていく。それを含めて福祉を進めていく概要版にできれば良いと思っている。

徳田委員長

市民の皆さんが参加して福祉を進めていくといった内容を書いてもらい、少しでも多くの方に福祉に携わってもらえるようにしていきたい。

その他に意見はあるか。

事務局

今回の修正案をいただいた内容で、最終のパブリックコメントにかける素案についてはパブリックコメント前、3月下旬になるが委員の方には郵送をする。まだ修正はできると思う。よろしくお願ひしたい。

徳田委員長

次回の予定をもう一度確認をお願ひしたい。

事務局

平成28年6月15日（水）に第5回目の策定委員会を13時30分から実施する。

徳田委員長

その他、何かあるか。

なければ、これをもちまして、第4回鎌ヶ谷市地域福祉計画策定委員会を閉会する。ありがとうございました。

3 閉会

会議録署名人署名

以上、会議の経過を記載し、相違ないことを証するため、次に署名する。

平成28年5月16日

氏 名 三浦 弘 _____

氏 名 福澤 明二 _____